

# ひびき

教育目標：「なかよく かしく たくましく」  
3本柱：さわやか挨拶 聞き方・話し方名人 いきいき運動

多治見市立共栄小学校 H30.9.28

## 運動会でつけた力を・・・

運動会が無事終わりました。本年度は、夏休み明けから暑さを心配し、9月に入ると、台風による臨時休校や引取の実施、また雨天が続き、計画通りの練習ができませんでした。当日も、天候とグラウンドコンディションを考慮し、1日延期させていただきました。ご家庭の予定にも迷惑をおかけしたと思っています。しかし、そんな中、子どもたちは、自分たちにできることを精一杯取り組み、一人一人のよさが輝いた素晴らしい運動会にしてくれたと思っています。ご理解とご協力ありがとうございました。

さて、素晴らしい運動会を創り上げた子どもたちは、どんな力がついたのでしょか。どんな力につながっていくのでしょうか。

閉会式で優勝できなかった白組低学年の反応はとても印象的でした。「は～っ」となんとも言えない落胆、とても残念だったのでしょうか。悔しかったのかもしれませんが、白組という仲間として、残念に思ったり、悔しいと思ったりできたことは、共に協力して頑張った実感を得ていた証ではないでしょうか。もちろん優勝した赤組も同様です。解団式で応援団員の話真剣に聞く姿からも仲間意識を確かに感じました。まさに「心」が動いている瞬間です。

私は、こんな風に「心」が動いている瞬間が、子どもたちに大きな力をつけ、成長のきっかけになっているように思えます。低学年なら、純粋に「うれしかった」「悔しかった」「応援団の子はどうしてあんなに一生懸命語ってくれているんだろう？」とか感ずることを通して、「また運動会頑張りたいな」「今度は勝ちたいな」「応援団員やってみたいな」といった前向きな心につながっていくと思うからです。高学年になると、具体的に自分の頑張ったことや共に頑張ったことの喜びを振り返ります。

「係の仕事を頑張っていたら、友達が協力してくれた」「大きな声で応援してくれて、最後まで走り切れた」など、頑張ることのねうちや仲間と協力することの意義を強く感じ、より前向きな生き方をしようとするに違いないと思うのです。休み明け、1年生の授業をのぞくと、運動会の振り返りを書いていました。先生がどんな題をつけるか聞くと、「たのしかったうんどうかい」「こころにのこったうんどうかい」「はじめてのうんどうかい」等々、次々に発表していました。素晴らしい子どもたちです。

運動会は私たち共栄小学校が目指す主体的な姿をたくさん見せてくれたように思います。「主体的に・・・」と言葉では言いますが、やはり、主体的になるためには大切な条件があります。それは、

- ① 目的や目標があること、
- ② すべきことがわかっていること、
- ③ 共に頑張り認め合う仲間がいること、

です。運動会での子どもたちの姿から、その大切さを再認識しました。さらに本物にしていくために「あなたは、どうして頑張れたの？」「次は、何を頑張るの？」と子どもたちに質問してみたいものです。子どもたちがつけた力やどんな生き方がしたいのか見えてくるかもしれません。大人として、子どもたちの出した答えをしっかり応援していきたいですね。

最後に、保護者の皆様の熱い応援、PTA役員の皆さんの協力、片付けへの協力、こうした支えがあってこそ、子どもたちの運動会が素晴らしいものになっていると強く思います。本当にありがとうございました。